

Title	第6号発刊に寄せて
Author(s)	佐々木, 倫子
Citation	母語・継承語・バイリンガル教育 (MHB) 研究. 6 P.1-P.2
Issue Date	2010-03-31
Text Version	publisher
URL	<a href="http://hdl.handle.net/11094/25062">http://hdl.handle.net/11094/25062</a>
DOI	
rights	
Note	

*Osaka University Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

## 第6号発刊に寄せて

『母語・継承語・バイリンガル教育 (MHB) 研究』第6号をお届けします。いっそう充実した研究会誌をお届けできることをうれしく思います。

本研究会は、2009年8月に、発足後初めて関西で年次大会を開催しました。開催前には、はたして何人ぐらいの方の参加があるだろうかと少し危惧していたのですが、充実したプログラムにふさわしい盛況な会となりました。多数の方が参加してくださったというだけでなく、開催後のアンケートに対する好意的なフィードバック、わけても、今後手伝ってもいいという回答を多数いただいたことを心強く感じました。湯川副会長の采配による大会準備・実行の確かさと共に、さすがにマイノリティ・グループの存在に長い歴史と広がり認識を持つ関西地方だと今更ながら感じ入った次第です。

2009年度の年次大会の成功は本誌にも反映されており、そこで発表された研究の中で論文に結実したものが出ただけでなく、講演と招待発表についても、読みやすい形で内容をいただくことが出来ました。箕浦康子氏の講演「本質主義と構築主義ーバイリンガルのアイデンティティ研究をするためにー」は、母語・継承語・バイリンガル教育の研究を志す人にとって、まさに必読のものです。本質主義から構築主義への流れ、さらに、構築主義における解釈的アプローチと批判的アプローチの違いがスライドとあわせてすっきりと理解できます。継承語話者・バイリンガル話者の研究には欠かせない文化的アイデンティティ研究の重要性にも今更ながら気付かされる内容です。

本号でも掲載されている書評は、本研究会が2007年から始めた、専門書読書会の第3弾にあたります。継承語教育という、研究分野としては新しい、この分野を多様な角度から捉えている文献を、国内外の会員が関わって読み進め、このような簡略な形にまとめたことは意味があると思います。ただ、これに続く読書会は現時点では予定されていませんが、理由のひとつが、本研究会の中島会長を研究代表者に、事務局担当の佐々木を分担者とする科学研究費補助金(基盤研究(B))を得た「継承日本語教育に関する文献のデータベース化と専門家養成」が2009年度から始まっていることにあります。多くの会員有志の参加を得て、継承語教育関連の文献データベースの作成と、継承語学習者の言語能力調査とそれに付随する言語環境調査、意識調査を2010年度も進める予定です。本研究から

は、今後の継承語の研究および教育に必ず役立つものが生み出されることであろう。

本号の編集・発刊の責任は、前号に続いて、真嶋潤子・清田淳子のふたりの企画担当理事が担いました。2009年2月に412名だった会員数は、2010年2月の時点で488名となりました。研究会は着実に育っていています。

本書を手にした方の中から、活動の輪に積極的に加わって下さる方がさらに出現することを願っています。

母語・継承語・バイリンガル教育 (MHB) 研究会 事務局担当理事

佐々木 倫子

2010年3月